

05年イカ類

単位：数量，1000トン、価格，円/kg

年	数 漁獲		産 地				輸 入			輸 出	
	スルメイカ	アカイカ	スルメイカ生	スルメイカ冷近	スルメイカ冷遠	アカイカ生	アカイカ冷	マツイカ	コウイカ		調製品
16	235.0	53.0	80.0	43.6	4.0	0.0	46.7	60.7	32.3	42.2	20.8
17	213.0	51.0	69.6	47.5	5.5	0.7	38.9	64.3	32.0	44.1	14.6
%	91	96	87	109	136	3645	83	106	99	104	70

年	消 費 地		在 庫 量			消 費 支 出		加 工 品				
	スルメイカ生	アカイカ冷	スルメイカ生	スルメイカ冷	その他	生イカ	イカ製品	イカ塩辛	干スルメイカ	燻製		
16	44.6	11.8	2.5	8.0	41.5	9.5	35.3	3,232	65.7	25.47	15.7	13
17	42.7	10.3	2.5	6.7	41.9	10.6	35.0	3,103	56.5	25.94	12.7	11.8
%	96	87	103	84	101	110	99	96	86	102	81	91

年	産 地		輸 入		輸 出		消 費 地		消 費 支 出				
	スルメイカ生	アカイカ冷近	アカイカ冷遠	マツイカ	コウイカ	スルメイカ生	スルメイカ冷	コウイカ生	コウイカ冷	生イカ			
16	238	298	227	92	129	405	590	135	389	316	597	772	3,055
17	213	255	218	154	115	417	616	172	416	355	625	796	3,068
%	89	86	96	167	89	103	104	127	107	112	105	103	100

スルメイカの資源

平成年代に入って日本近海のスルメイカの漁獲は、平成10年を除くとかなり安定的に推移しており、20～40万トン台の高い数字を記録しており、本年もその範囲内であるが、昨年以上に低位の水準であった。

太平洋側の漁獲の殆どを占める冬生まれ群の資源量は、1980年代の終わりから増加傾向を示し、1996年には133万トンに達したが、経年変動が大きい。2004年の資源量は2003年を9万トン上回る88万トンと推定され、2001年をやや上回る水準であった。SSBIは1980年代後半から増加傾向を示し、1993年には最大の45万トンに達した。しかし、1996～2000年は経年差が大きかった。2005年級を産んだSSBIは前年度を6万トン上回る35万トンであった。現在の冬季発生系群の資源水準は中位に低下したが、資源動向は最近5年間の資源量から横ばいと判断されている。

主に日本海(対馬暖流系)で漁獲の対象になる秋生まれ群の資源水準は、1980年代は低水準・減少傾向にあり、資源量は50万トン前後であった。その後、1990年代は増加傾向となり、1990年代後半(1998年を除く)以降は100万トンを超える水準となった。2004年は86万トンに減少したが2005年は116万トンと推定され、再び100万トン(MSY水準)を超えた。なお、スルメイカの資源量は中長期的な海洋環境の変化によって変動すると考えられ、1990年代以降の資源の増大は、海洋環境がスルメイカにとって好適な状態に変化したためと判断されている。

産地水揚量と価格

17年の日本近海のスルメイカ水揚量(継続漁港)7万トン(前年8万トン)、冷4.8万トン(前年4.4万トン)と生鮮は減少、冷凍は増加した。

TACの採補実績に基づく漁業種類別漁獲量はトロール3.9万トン(前年4.4万トン)、まき網1.5万トン(前年1.5万トン)、釣りの生鮮が6.1万トン(前年6.2万トン)、釣りの冷凍4.5万トン(前年4.5万トン)と底引きを除くとほぼ前年並みの漁獲量となった。

冷凍は、本年も昨年同様北陸船団が日本海スルメイカ主体の操業をし、青森、北海道、岩手船団がアカイカ(ムラサキイカ)と日本海に分かれての操業であったが、赤イカは昨年以上に初夏の初航海も低調で、年明け後のややまとまったが何れも昨年をかなり下回る低調な漁模様であった。

生スルメイカの海域別漁獲量は、日本海11,635トン(前年8,891トン)、太平洋58,837トン(前年63,812トン)、オホーツク0トン(前年0トン)で、日本海で増加した程度で太平洋では羅臼での漁不振等もあってやや減少した。また近年増加している九州北部での漁獲も3,749トンで前年(5,142トン)を下回った。

本年も中型船凍船は、当初スルメイカとアカイカ操業とに分かれたが、今年も概ね日本海操業が主体で日本海でのするめいか漁は前年並みで順調であった。

また本年も業界では、従来からスルメイカー極集中の排除、三極漁場の選択的移動、漁獲努力量の分散、急速凍結によるブロック製品の品質向上等付加価値の高い魚種や製品作りの奨励、サイズ選択、IQFの促進、アカイカの高度利用等の指導は本年も続いた。

産地価格は、生鮮213円で前年(238円)、冷凍は255円で前年(298円)何れも前年をやや下回った。

本年の特徴は、本年は冷凍スルメイカの水揚げ減少傾向が止まった、本年の冷凍スルメイカのサイズ組成は、21~25尾サイズが20%で前年(29%)をやや下回り、26~30サイズも23%で前年(24%)並み程度、サイズ組成も20尾以下は12%で前年(17%)より少なく、全体的にやや小型化している、AR、FOR、ペルー水域等、海外でのイカ類はペルーアカイカが前年並みであったが、マツイカは引続き極めて低調な漁に止まっており、大型船の次年度以降の出漁にも陰を与えた、こと等である。

在庫量

17年は近年では最も少ない5.3万トンの在庫から始まり、例年通り6月に最低になったが、その数量は昨年よりやや多い2.7万トンであった。その後、新漁の水揚げが始まったがやや漁の伸びもなかったが、加工製品等の動きも鈍く、在庫もやや膨らんだ。この結果、越年在庫は5.7万トンと前年をやや上回った。平均在庫量も、4.2万トンで、前年(4.2万トン)並みであったが、水準としては低くスルメイカ資源の低迷期であった昭和50年代の水準まで下がっている。

消費地入荷量と価格

スルメイカの消費地入荷量は、生4.3万トン(前年4.5万トン)、冷凍1万トン(前年1.2万トン)であった。本年も昨年以上にイカ類全般の生産がやや低調であったことで生鮮・冷凍とも入荷が引続き前年を下回った。価格は、生416円(前年389円)、冷355円(前年316円)で生・冷とも4年続きで強含んだ。

消費支出でみると購入数量は引続きやや減少したが、金額ベースでは単価高もあって前年並みであった。

NZイカ

17年のNZイカ釣漁は、本年は4隻、2.5千トンでやや上向き傾向にある。因みに前年度は3隻、0.7千トンであった。

産地水揚量（全漁連）は、3,068トンで前年（974トン）を大幅に上回った。

価格は220円で前年（205円）やや上回った。

SWAイカ

17年のSWAマツイカ釣漁は、AR5隻 - 5.6千トン（前年12隻 - 10千トン）、FOR0隻 - 0トン（前年4隻 - 0.1千トン）、SA公海1隻 0.3千トン（前年5隻 0.1千トン）であった。

何れの海域も極端に低調で、特にフォークランドでは入漁しなかった。平成14年から裸用船方式への切り替えで操業隻数の減少が更に目立った。

産地水揚量（全漁連）は、1,800トンで引続き前年（2,715トン）をかなり下回った。

価格は222円で前年（234円）を下回ったが、供給量の極端な減少によってマーケットからややはずれた格好になっている。

マツイカのサイズアソート(R物)は、21-25が23%、26-30が21%、31-35が14%で、前年(51-60サイズ19%、36-40%サイズ18%、31-35サイズ16%)に比べると大型化が顕著であった。

アカイカ

本年も昨年以上に初夏の初航海も低調で、年明け後にややまとまったが何れも昨年をかなり下回る低調な漁模様であった。その他の季節も近海、沖合（東経170度以東水域）とも昨年以上に極めて低調のまま推移した。したがって近年では悪かった平成14（2002）年を更に下回る結果で、凶漁であった。また、小型船の漁獲は少ないながらも近年では比較的良く730トンの水揚げであった。なお、大型船（沖合操業）は5隻0.2千トンで、前年（7隻0.6千トン）を大幅に下回った。

全漁連集計によると、生815トン（前年31トン）、冷0.8トン（前年1.4万トン）であった。

産地価格は、生162円（前年197円）、冷221円(前年210円)であった。

アカイカは近年中国を主体とした諸外国からの製品輸入も年々多くなっている上に、水揚げの減少・低迷が続いていることにより、マーケットシェアも落ちていることから、国内アカイカ市況は周年を通じて軟調相場であった。

海外アカイカ、ペルーのみ(200海里内外)の操業であったが、夫々12隻-42.2千トン、4隻-1.1千トンで、昨年実績（13隻-40.6千トン、11隻-3.4千トン）でほぼ前年並みであった。

本年のペルーアカイカの耳とりのサイズアソートは5尾以下91%（昨年は5尾以下が72%）と超特大サイズに偏り昨年以上に大型が多かった。

産地水揚量（全漁連）は、31,252トンでほぼ前年（31,970トン）並みであった。

価格は89円でほぼ前年（92円）並みで推移した。

輸入イカ

17年の輸入イカ(コウイカを除く)は、中国主体に6.4万トンと前年(6万トン)を上回った。

価格は、搬入の増加を反映し上昇が顕著で417円と前年（405円）をやや上回った。

冷凍イカの主要輸入国は、中国28,948トン（前年25,042トン）、タイ9,166トン（前年9,83

8トン)、ベトナム5,963トン(前年5,295トン)、米国7,732トン(前年5,429トン)、フィリピン1,323トン(前年1,004トン)、インド1,788トン(前年1,764トン)、NZ1,233トン(前年1,308トン)、ペルー3,332トン(前年2,492トン)、アルゼンチン1,992トンで引続いて中国の増加が目立った。

17年の輸出は、1.5万トンで国内漁の低調さもあり、前年(2.1万トン)をかなり下回った。

モンゴイカ

17年のコウイカの輸入は、3.2万トンで前年(3.2万トン)並みで本年も大きな変化はない。

輸入価格は、616円で前年(590円)をやや上回った。

消費地入荷量は、0.7万トンで再度前年(0.8万トン)をやや下回った。

価格は、796円で前年(772円)を輸入価格の上昇もあってやや上回って推移した。